

## 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（第18回） 議事要録

日 時 平成30年12月13日（木）19:00～21:00

場 所 武蔵野総合体育館3階視聴覚室

出席者 委員11名、事務局6名

小澤（紀）委員長、鈴木（雅）副委員長、大沢委員、大谷委員、上吉川委員、強矢委員、木村（文）委員、佐久間委員、鈴木（圭）委員、村井委員、木村（浩）委員

- 議 事
- 1 武蔵野市エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方について
  - 2 武蔵野市エコプラザ（仮称）管理運営方針の記載内容について
  - 3 その他

### 1 武蔵野市エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方について

発言者	要旨
委員長	<p>福山市の産業廃棄物処理施設の視察に行ってきた。環境教育について、知識だけでなく体験の場を設けていた。</p> <p>エコプラザについても、より良い学びの場にするにはどうしたら良いか、議論いただきたい。</p>
事務局	<p>－資料1「武蔵野市エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方について」について説明－</p>
委員長	<p>質問、意見があれば出してほしい。</p>
委員	<p>パブリックコメントは反対意見もあったが、様々な意見をいただいた。それらの意見を、管理運営やプログラムの議論の参考にしたい。</p> <p>本書のP.8のⅢ基本理念1は、「日常生活における環境問題への気づき、低炭素モデルの実現、地域力の向上、まちづくりとの連携を目指すことによってSDGsの達成に貢献する。」ことがきちんと決まったと思っている。</p> <p>P.9に、SDGsが言葉の羅列だけでなく、マークを入れたのはわかりやすく良くなったと思っている。コンセプト、基礎となる考え方、エコプラザの位置付け、エコプラザの機能などの考え方について、この市民会議で共通認識ができたと理解している。この後、具体的にどのように管理・運営していくのかという、次のステップに進めると考えている。</p>
委員長	<p>12月9日の日曜日にエコマルシェで「絵本のかえっこ」をやっていたが、来場されたお父さんが子どもたちに自発的に紙芝居を読んであげているのを見た。「かえっこ」というのはリユースのことを意味しているが、リユースという側面だけでなく、親と子がふれあい、自然と会話をかわすことのできる場ともなっている。人と人をつなぐ、環境分野をつなぐ、世代をつなぐというのは、大事なキーワードだと思っている。</p> <p>P.9にSDGsの17のゴールとロゴの記載がある。このSDGsのホイールのロゴのバッジがあるが、武蔵野市民が「私たちもこんなことをやっているよ」という意味で付けていくのも良いと考えている。</p>

## 2 武蔵野市エコプラザ（仮称）管理運営方針に記載する内容の素案について

発言者	要旨
事務局	－資料3「エコプラザ（仮称）管理運営方針に記載する内容の素案について」について説明－
委員	運営に関する協議会の構成案だが、周辺市民団体が入っていない。いろいろな会議に出席する中で、クリーンセンターやその周辺のことを知らない人たちばかりが出ている会議だと、ちょっと違うと感ずることがある。そんな時には、周辺住民なども含めて話し合いをした方が良いと思っていた。来週、武蔵野クリーンセンター運営協議会があるので、そちらに持ち帰り検討したい。
委員長	場の記憶というか、ライフスタイルが反映される場所であるクリーンセンターというものを逆手にとって地域の力に変えていこうという方針でいる。
委員	クリーンセンター運営協議会では30年間クリーンセンターを通して、地域の環境について話し合いを重ねてきたので、それと関係なくしてエコプラザはあり得ないと個人的には思う。押し付けるのではなく、力になれると思っている。クリーンセンターの記憶の継承にもつながるし、3団体で30年間積み重ねてきたものは、大きなヒントになる。
委員長	基本的な考え方のコンセプトの中でも、継承するという点について書いている。
委員	ファシリテーターとコーディネーターについては、どんな役割を期待しているのか。
事務局	<p>これまでの議論の中で、ファシリテーターは、館の切り盛りをする人で、環境の専門性を持ちつつ、市民参加のキーマンとなる方が必要だという意見をいただいていた。</p> <p>施設運営には職員が関わるが、その上で施設を切り盛りするファシリテーターがいて、様々な事業がうまく回るようにコーディネートする人が必要と考える。</p>
委員	ファシリテーターについては、これまでの議論でそのような人だと理解するが、コーディネーターのような人について、嘱託職員として適当な人はいるだろうか。
委員長	他地域のある環境教育施設では、スタッフ間の連携ができておらず、発信力も落ちている。学校教育の現場であっても、校長だけでは無理で、教務主任とか、つなぎ役とかエージェント的な人も必要である。
委員	そういう人は非常に大切に、いなければ施設を運営するのに大変だと思う。民間に委託するなら良いが、嘱託職員という立場で確保できるのかという疑問がある。
委員長	<p>うまく運営がまわっていない環境系のNPOのどこに欠陥があるのかと見ていくと、エージェント的なことを担うという意識を持っていない職員が多いということである。先に権威を出してしまっている。行政の中もタテ割りになっているので、つなぐ意識を持ったコーディネーター的な人がいないと成り立たない。</p> <p>委託する方法があるが、ここではうまくいかないと思う。</p>
副委員長	正規職員の役割がすごく重い。ルーティンをこなすだけでないので、ディレクター的な役割が大きくなる。館長が、市の定期人事異動で配置されるようでは難

	しいかもしれない。庁内公募や一般公募でも良いのではないかな。
委員	指導する人だけではなく、動く人がいないとだめだが、動く人だけだと、どこへ向いていくのかわからなくなる。それぞれの人がしっかりやらないと、一人だけ立派な人がいても孤立しかねない。
副委員長	<p>図書館だと司書、美術館・博物館だと学芸員やキュレーターがいる。しかし、それだけでは回らない。方向性をつける人がいて、具体的に動ける人がいる。ファシリテーターとコーディネーターが分けて書いてあるけれど、一般的にはあまり区別がつかない人が多いと思うので、もう少し整理した方が良い。それから最近ではインタープリターという職種もある。</p> <p>協議会の構成に関しては、協議会が固定ポストのようになって枠組みみたいになってしまうと良くないと思う。先ほど、武蔵野クリーンセンター運営協議会の話があったが、固定枠をつくるのではなく、機能を見て、そのどれに役立てるか、どの部分を担って活躍してくれるかということで、実行部隊としての協議会をつくるというのはどうか。最初に固定的に組織を決めてから活動しない方が良いと思っている。</p>
委員長	<p>事業計画の段階で、実施したいプログラムが特許を取得されていたら交渉して武蔵野市でやる時にはそのノウハウを教えられるようにするとか、ゲストティーチャーとして呼んでくるとか、それから、お金がないところでどうするかとか、代替案がないのかということなどもディレクターは考えなくてはならない。地域の企業からの寄付講座があるのも良い。身近な問題から、なぜ、どのように環境につながっていくかということまで、学ぶ、つながるという視点から考えていくことが大事だと思っている。クリエイティブな力も必要になる。</p>
委員	<p>SDGs 推進未来都市である横浜市と弊社が包括連携協定を結んだ。昨日、ある横浜市立の高等学校に、SDGs 推進の一環で17の企業やNPOが集まり、身近にある企業が、企業の責任としてどんな社会貢献に取り組んでいるのかを生徒たちに伝えるという催しがあって、参加した。名前だけは知っている企業がどう社会負担を減らし社会貢献をしているのかを知り、将来に向けて自分がどう行動すべきかを考えることが、生徒たちに課せられた課題だった。その学校はユネスコスクールに指定されていることもあり、生徒はSDGsのことをかなり知っていて、真剣に話を聞いてもらえた。このあと、学生たちの意見が集まってくるので楽しみにしている。横浜市には政策局共創推進室といって、民間企業と連携する部署があるが、そこにアイデアマンがいて、企業を駆けずり回っているとのことである。企業側は一切、お金をもらわないでこのような取り組みを行っている。当日の発表の仕方もお任せしますというので、パソコンもプロジェクターもスクリーンも持参するということになり、リクルートに関わらないのであれば会社の資料も配って良いということだった。言わば、「エコプロダクツ」の高校生版みたいなことだった。武蔵野市内にも企業は多くあるので、市がお金をかけなくてもできることがある。それをどうつなげるのかということも意義があるし、そういう機会があれば、弊社も協力したいと思う。</p>
副委員長	私も同じことを提案しようとしていた。企業としてもSDGsを推進しなくてはいけないという事情があって、社内でやっていることを外に知らせるにはどう

	<p>したら良いかという、会社に人を呼ぶわけにはいかない、出ていかなければいけない。その場として、エコプラザがあれば、いろんな企業がこのテーマに絡んでアクションを起こしてくれると思う。そういう意味では、すべてプログラムを自前でつくってそれを実行するのではなくて、営業にあって、エコプラザでSDGsの推進について発表してくれないかと言えば、良いのではないか。</p>
委員	<p>弊社の場合には、GMS (General merchandise store) ということで広い催事場などのスペースがあるため、うまく活用すれば、いろいろなお客様がいる場でPRすることはできるが、一方で、メーカーは場所がないので、外に向けてどうやって伝えていけば良いのか悩んでいる。商品やイベントを通して知ってもらうことで、企業のブランド価値や会社に対する信頼というものを高めていくことができる。だから、そういう場所に出張したいと思っている。</p>
委員長	<p>そういったことがソーシャルインパクト的なものに結びついていくし、価値を共有しながら、商品や取り組みを評価されることでより良い組織づくりに結びつく。市民の地域力がアップすることで、より良い豊かな暮らしをつくっていくことに結びつくのだと思う。</p>
委員	<p>メーカーや私たち企業が、実生活をしている人の生の声や反応を聞くことができることで、会社としても次の物づくりやサービスのあり方に生かすことができるので、ウィンウィンな関係だ。</p>
副委員長	<p>武蔵野市の企業にとって、エコプラザでSDGsの活動報告をしたということが企業の評価になるということになれば良い。</p>
委員	<p>企業がエコプラザで何かをして、大きい価値を見出すことができれば、リリースした情報がマスコミやネット上にも出ていくし、そういう意味での知名度を上げて行くことになる。重み、価値が出てくると思う。</p>
副委員長	<p>環境と関連すると考えると、思わぬところでつながるので、あまりこちらの思い込みで決めつけない方が良いと思う。</p>
委員	<p>職員体制について、直営プラス市民参加となっているところがポイントで、この市民参加の中にはもちろん企業も含まれていて、ここで協力してくれる人がいないと回らない。どう連携し、市民や企業の力を使うかということが重要なのではないか。職員体制を直営にしたのは、市で手厚くやろうということではなく、市の施策と連動しながらプラス市民参加のところが重要だと考えている。</p> <p>運営協議会のイメージとしては、開館するまでに決めていかなくてはならないところがあり、また、実際に開館したら実務の協議会になると考えている。関わる人、担い手づくりという部分が重要で、開館までに、そういう人を発掘なり育てるなりしていきたい。</p>
委員	<p>開館前と開館後とで、運営協議会の役割が大きく変わるのだろうという印象を受けている。また、開館後の意思決定の仕方があやふやだと感じる。例えば、運営協議会が、上位の意思決定機関になる場合には、正規職員やファシリテーターも、運営協議会に入った方が良い。また、開館後は、評価検証まで運営協議会の目的の中に入っているが、そこは、きっちり分けた方が良い。具体的なプログラムの検討と評価検証を同じ人が行うのは、すごく難しいことと思う。</p>

委員長	そこは少し考える必要がある。ほかに何か意見はあるか。
委員	運営協議会の分野欄に「子ども」とあるが、どれくらいの子どもの対象にしているのか。小さい子どもを対象として、あまりにも視点を下げ過ぎると、そこから何も出てこないのではないかと思う。
委員長	子どもの視点を入れるために、子どもに関わっている組織の人を入れるという意味合いである。幼児や、お腹の中にいる赤ちゃんの時から、環境や健康のことを考えるとといった視点で加わってもらう。子どもに関わっている青少年問題協議会またはPTAなどが例として挙げられている。
委員	「子ども」という言葉自体がよくないように思う。「青少年」などとしておいた方が良いと思う。
委員長	この間のエコマルシェを見ていると、子どもの視点は鋭いな、と感激したことがあった。でも、「青少年」という書き方もあると思う。
委員	<p>P. 2のプログラムのところだが、例えばニュースレターのところを見ると、「知る」だけに○がついている。情報誌は配ったり、置いてもらうことを交渉したりすることが大変で、「知る」だけでなく、「支える」も大切なので、「○」付けがここだけと特定できないのではないかと思う。ただ、項目を挙げることは良いと思うので、まだ決めつけられない方が良いのではないか。</p> <p>企業がどれだけ努力しているかを聞く機会があったが、それを中学生に伝えたいと思っても、短い時間ではなかなかできない。また、学校に一企業が入り込むことについて、学校としては、なぜその企業でなければならないのかという点で、会社とつながることについて合意形成が難しいと聞いた。そこで、エコプラザでそのようなプログラムを実施して、興味を持った中学生や高校生に学んでもらえれば、ぐっと子どもたちを社会的なものに近付けられるのではないかと思う。高校生はともかく、中学生は、なかなかそういう場に自分から接触できないという気がしているので、企業とそういうかたちでつながっていければ良いのではないかと思う。</p>
委員	横浜市の場合は、協定を市と企業とで結んでいて、環境分野や青少年育成分野で協力することが決まっている。武蔵野市とも包括協定を結んでいるので、その分野に即したところで、協力することができると考えている。
委員長	学校の屋根があるところだけで、学んでいるわけではない。文科省も「開かれた学校づくり」を推進している。エコプラザが、屋根のない学校になると思う。
委員	例えばエコマルシェでは「おもちゃのかえっこ」をやっているが、子どもたちがおもちゃをずかずか踏みつけているのを見たら、大事なおもちゃを出したのだから、踏まれていたら悲しいよねという発想が出てこないといけないと思う。エコプラザについては、東京都がやれば良いとか、国がやることをなぜ武蔵野市が、という意見もある。しかし、それは武蔵野市らしく、環境につながる最初の発見を市民の目でやるということが、一番重要なところだと思っている。それをプログラムに昇華していくところについては、プロや企業にお願いすると良い。「もやもやカフェ」や「ぺちゃくちゃナイト」という取り組みを試験的にやっていたこともあるが、素朴な疑問に答えてくれるエコプラザというところに、面白いプロ

	<p>グラムが生まれてくると思っている。その辺りの仕組みをうまくつくっていけると、ほかの市や県にはない、エコプラザになるのではないかと思う。</p>
委員長	<p>一步一步積み上げていくしかないと思う。無造作におもちゃを取り替えっこすれば良いということではない。誰かが大事に使ってきたという魂があるということに、いかに気づいてもらうかだと思う。「絵本のかえっこ」をやっている、ここがほころびているからテープで補強してみようかと思ったり、あるお父さんは、紙芝居をさっと周りにいる子どもたちにやっていたりして、「知る」「学ぶ」という場になっていくんだろうと思う。機械的にただ縦割りでやっていると、そういう場はなかなか生まれてこない。「おもちゃのかえっこ」を見ていて、子どもたちにはおもちゃがいやというほどあるのだな、とちょっとショックも受けた。私の時代は、おもちゃは手づくりで、それを大事に次の人に使ってもらっていた。お人形だけではなく、お手玉なども、母、おばあちゃん、地域の人がつくってくれた。小学校高学年になれば自分でつくったりした。今は何かひと手間が抜けて、プラスチック製のものが増え、無造作になってきている。そういったところに、環境教育を実施している人が、まず気付かないといけない。昔は、地域の直系の縦や横の関係だけではなく、斜めから見てくれている人もいた。それが地域社会から消えたので、そういったところも、必要だと思う。</p>
委員	<p>「絵本のかえっこ」で受け取った本を見てみると、壊れているものとか、シール遊びの本なのにシールがひとつも残っていないことがあって、後の人が楽しめない本はここでは替えられない、と返したことがあった。ゴミを受け取るのではなく、できれば、汚い本はきれいにしたいし、本をきれいに直すこともしたいと思っている。</p> <p>機能の「〇」づけについては、全部「〇」がつくように思う。例えば、広報はとても深い仕事で、人をつなぐ仕事であり、「支える」「学び合う」仕事だと思う。</p>
副委員長	<p>あまり最初に機能分解してしまうと、それにはまらないものは、むしろ排除する形になってしまうので、何でも受け入れられるように曖昧さもあって良いと思う。</p>
委員	<p>P. 1にある「集客に頼らない管理」というところを確認したい。また、運営に関する協議会が具体的なプログラムを検討することになっているが、構成メンバーとして、適当な人選になっているだろうかという疑問がある。以前会議で話し合った際、受けてみたいセミナーやテーマについて、身体を動かすことや芸術に関することという話題も出ていたが、そういうものは、日々活動している方でないといけないと思う。そういったところをうまく回るように枠組みをつくる会議が協議会としては必要と感じている。</p>
委員長	<p>「集客に頼らない管理」について、事務局より説明願いたい。</p>
事務局	<p>評価について検討していただいた中で、エコプラザへの来館者数だけでなく、アウトリーチの出張講座等も利用者数として換算すべきではないかというご意見があった。この施設に人を集めるということだけが施設の評価にはならないという意味で使っている。</p>
副委員長	<p>明示的に書いてしまうと言い訳に見えてしまう。お客が来なくても大丈夫なのだ、最初から予防線を張っているように読めてしまう。本来の意図は違い、評</p>

	<p>価軸が来園者数ではないという意味なので、内輪の話で良いのではと思う。</p>
委員	<p>自発的にエコプラザを利用する年代は中学生以降だと思うが、平日5時に閉館してしまうと、使いにくい部分があるように思った。例えば、中学校の部活動が終わってから、帰ってくるのは6時くらいになることも多いと思う。</p>
委員長	<p>特定のプログラムがある時には延長するのはどうか。例えば、今年の夏は、団地の中でセミの羽化を見たが、エコプラザの周辺で、エコプラザのプログラムとしてできると思った。夜、生き物がどう動いていて、羽化する場所がどうなっているか、みんなに見せたいと思った。教科書で読むより、体験してもらい、探求してもらおう方が伝わりやすい。定時になっているが、プログラムによっては延長もありうると思う。</p>
事務局	<p>駅から距離があり、利便性や、働く人のローテーションなどを考えた上で、適当ではないかと判断した時間を示している。ご意見として承る。</p>
委員	<p>私も平日の5時までだと、一体どれだけの人が利用できるのかと感じている。ただ、事務局の話聞いて、夜まで開館することに問題もあるのだなと思った。</p>
委員	<p>武蔵野プレイスは、駅前なので朝から夜間までやっている。人力的には3ローテーションとなり、手間と人件費がかかることになる。エコプラザをどういうふうに回していくかということになるが、少なくとも、土日は開けた方が良いと考えていて、プログラムによって、夜間も開館する等工夫も考えられる。昼に開館し、夜8時までという方法もあるが、今度は「なぜ朝、開いていないの？」となってしまう。図書館は9時30分から開いているなど、公共施設としてのバランスもある。ご意見をいただいた中で、今後詰めていく。市民参加の中でプログラムによって臨時的に開けていくこととしたいと思うが、ご意見として承る。</p>
副委員長	<p>プログラムの中身でも違う。例えば、市外の方も対象にしたり、企業のことをプログラムとしてやるなら、土日開催が良いかもしれないし、市民に密接してやろうというなら、平日のアクセスが良いところが良いかもしれない。土日と平日で考え方を変えるという方法もある。</p>
委員	<p>時間と曜日で、どういう層が来るかも考える必要がある。</p>
副委員長	<p>最近、ラジオでむさしのFMをかけっぱなしにしているが、そういう報道の人たちのアンテナの高さに感心した。運営に関する協議会の中にも、マスコミ系の人が入ってくると、人やいろいろな出来事をリサーチする力が長けていて良いのではないかと思った。</p>
委員長	<p>良いアイデアであると思う。</p>

## 報告事項

### 1 ニュースレターVol. 2（案）について

発言者	要旨
事務局	－資料4「エコプラザ（仮称）ニュースレターVol.2（案）」について説明－
委員長	やわらかい印象になったと思う。
委員	1号よりもページ数が増えたし、字も大きくなった。
委員	ニュースレターvol.1は公表しているか。これからか。市ホームページを見ていても出てこないの。
事務局	まだ公開していない。
委員	中心の絵だが、建物が3つあり、簡単に描くのは良いが、建物の関係性、それぞれの役割がわかりづらい。
事務局	例えば、考え方のP.16に全体像があり、ここに導線などがあるが、説明が足りないだろうか。
委員	まだ建物を壊したりしているときにこのデータをつくったが、もう古い。図をつくり直すか、できなければ載せない方が良いと思う。
副委員長	新管理棟とクリーンセンターと煙突は不可分であり、これで機能しているということ、これら合わせてひとつであると見えた方が良い。
委員	工場棟と新管理棟は実際にはデッキでつながっているのと、機能も一対のものである。
事務局	ハードの部門からデータをもらい、差し替えるようにする。
委員長	ほかに何か意見はあるか。こげ茶の色が強いと思うが。
副委員長	ほかがパステルカラーなので、そこだけ汚く見える。
委員	今後のスケジュール部分だが、この形があまり生かされていないと思う。時の流れが、読まないとわからない。平成29年、30年を丸の中に入れてはどうか。また、「今はここ」はいらぬのではないか。 それから、できれば行間をもう少し空けると読みやすい。最初のページの「エコプラザが目指すもの」のところだが、文言を、区切りが良いところで改行した方が読みやすいと思う。こういう細かいことが、読みにくさにつながることもある。あと、「市民参加・市民提案」の中黒が文頭にきていると、意味が変わってくるので、中黒で改行する時は、文章の終わりにつける方が良いと思う。
委員	コンセプトのところは、コンセプトとあるので、最後に「コンセプトです」はいらぬ。「共に参加する」の真ん中は、字体が明朝になっているので、字体はそろえた方が良い。 細かいことを言うと、右側のところも、点があるが、上のスペースが「武蔵野市に関係ある人」と、市民参加のところを書いてあるが、上のところとスペースが違っているので、文字数を合わせると良い。 それと、開いた時に図面が切れるのがもったいないと思う。 今後のスケジュールについても、丸をやめてまっすぐにして、時系列をしっかりとすれば、ここの文字が読みやすくなる。
委員長	「エコプラザが目指すもの」の、「日々の気づきを、」の点がいらぬのではな



	いか。日本語的にどうか。
委員	裏表紙の上の囲みの色と、下の囲みの色が似ているが、何か意味があるのか。中途半端なので、関係ないなら、違う色にした方が良い。今後のスケジュールの一番上だけ、丸からはみ出しているのが気になる。それなりに意味がついてくることなので、統一できるならした方が良い。
委員長	他に意見はあるか。いつ配布になるか。
事務局	もう一度、皆さんにお見せして、それでよければ公表する。
委員	前は議員と、希望者だけだったが、今回はどの範囲で配布するか。
事務局	なるべく公共施設には、「市の基本的な考え方」の冊子は置くようにしているので、それと同じような施設には置きたいと考えている。 ただ、カラー印刷が難しい場合には、モノクロになってしまう可能性がある。ホームページ上でなら、きれいなものでお見せできる。
委員	モノクロにしてもやっていけるデザインにした方が良いのではないかと。
委員長	また後で気が付いたことがあれば、事務局にご意見を伝えてほしい。

## 2 環境フェスタ（11月11日開催）について

発言者	要旨
事務局	環境フェスタの報告。
委員長	地球温暖化は異常気象をどう説明していくかが難しいが、日常的に会話などがあるか。
委員	学校ではしょっちゅう話している。地球温暖化に関しては、死人も出ているので、他人事ではなく、夏場は日常会話になる。スピードがどんどん速まっているので、環境の変化についていかねばと思っている。
委員長	以前、国立環境研究所の江守正多先生に講演していただいた後、聞いていた生徒が「絶望的」と感想を言っていた。
委員	今年は台風だとか全国的に災害があって、身近でもすごく暑く天候がおかしかった。例年に比べて異常気象に関する話が多かった。 今日は参加されていないが、田中委員も異常気象の講座を開くと参加者が増えたと言われた。皆じわじわと実感していると感じた。
委員長	出張先の広島県では、まだ災害の影響でJRの列車が通っていないところがある。9月に京都へ行ったが、台風の影響で、屋根にブルーシートをかけたままの所が多かった。マスコミの報道が偏っているところがあるので、情報を読み解く力が必要である。北海道ではお米がたかさんできるようになって喜ばしいことだが、これまでできていた所で収穫できなくなるという変化も起こってきている。そういうことを考えねばならない。
副委員長	団地の設計をしていたが、ここ数年は設計能力を超えた激しさの雨が降る。そういうところで異常気象を実感する。 気温がずっと上昇しっぱなしでなく、上がって下がってと変動しているから騙されてしまう。

委員長	折りにふれ、学び合いをしていかねばならない。 その他、今後のスケジュールなどについて。
事務局	次回の会議は1月17日に、413会議室で開催する。
委員長	今日の議論で追加事項があれば事務局へ連絡のこと。
事務局	2月に予定していた会議を1月に変更した理由だが、当初3月6日の厚生委員会で報告する予定だった管理運営方針案を2月5日の厚生委員会で報告することとなったためである。その後、市民の意見をいただくことになっている。
委員長	よろしければこれで終わりたい。